鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会 川薩チームだより

市町長杯ロードレース大会

１１月２４日、令和６年度川薩地区市町長杯ロードレース大会が陽成地区コミュニティセンター周辺コースで開催された。県下一周駅伝候補選手予選会第一弾として、それぞれ現時点の力を試すレースとなった。多くの社会人が出場し、天候にも恵まれ力走した。

一般・大学・高校男子 10km

1位	淵之上 佑樹	31分10秒64
2位	石井 凌	31分20秒48
3位	内 翔平	31分28秒06
4位	大良 優斗	31分38秒45
5位	武下 孝輔	31分45秒84
6位	竹内 嘉	32分02秒27
7位	野﨑 覚	32分06秒96
8位	中橋 信人	32分22秒72
	吉留 悠介	32分30秒83
	米藏 亮	32分31秒13
	牛島 涼	32分41秒78
	溝口 優斗	33分23秒54
	杉薗 光大	33分29秒60
	中村 智明	33分41秒88
	栗野 将	33分51秒61
	満冨 勇太	35分43秒10
	柳田 悠翔	34分57秒44
	東谷 陸	36分20秒00

ロード大会出場 主力安定の走り 川薩チーム

県下一周 駅伝便り

川薩チームは24日、薩摩川内市陽成地区であった市町長杯ロードレース大会に出場した。一般男子の部で社会人の主力選手が安定した走りを見せた＝写真。

一般男子10キロは、主将の淵之上（植村組）が序盤から先頭に立ち31分10秒で優勝。共にレースを引っ張った石井（京セラ川内）が2位、内（さつま町役場）が3位だった。大良（第一工科大）が4位に入った。

中俣哲男監督（薩摩川内市役所）は「暑さはあったが上位陣は安定していた。大学生が台頭する姿も見られて良かった」。淵之上主将は「全体としてまずまずの結果。2週間後の10キロロードは全員が今日より良いタイムで走れれば」とさらなる奮起を誓った。（田上恵以）

「南日本新聞」R6.11.25 掲載記事より

南日本１０ｋｍロード大会

１２月８日、第６５回南日本１０ｋｍロード通信競技（川薩地区）大会が陽成地区コミュニティセンター周辺コースで開催された。

県下一周駅伝候補選手選考会として９人が出場し、社会人や高校生が安定した走りを見せ好調をアピールした。その後、登録選手の発表があり、登録手続きや今後の練習計画等について説明を行った。

共通10km

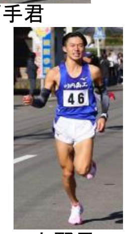
1位	西手 新陽	30分25秒90
2位	上野 泰岳	30分34秒05
3位	曽木 大士朗	30分35秒28
4位	髙塚 秀一	30分43秒62
5位	米藏 亮	31分21秒22
6位	大良 優斗	31分22秒69
7位	石井 凌	31分28秒11
8位	淵之上 佑樹	31分36秒04
	吉留 悠介	31分38秒32
	内 翔平	31分39秒70
	武下 孝輔	31分45秒47
	野﨑 覚	32分12秒90
	滿園 貴一	32分15秒51
	竹内 嘉	32分31秒79
	福留 和真	32分48秒13
	中橋 信人	32分50秒87
	宮野 和奏	32分54秒80
	小田原 大雅	33分04秒65
	牛島 涼	33分13秒53
	満冨 勇太	33分30秒76
	杉薗 光大	33分33秒18
	溝口 優斗	33分39秒90
	樋之口 優希	34分06秒37
	米良 龍希	34分25秒95
	荒川 聡真	34分48秒57
	栗野 将	35分05秒46
	中村 智明	35分13秒80
	藤吉 宏信	36分47秒23
	新保 宏明	37分29秒62

曽木君

西手君

米藏君

髙塚君


上野君

日笠山駅伝50回 校区駅伝さきがけ

薩摩川内・永利地区

薩摩川内市永利地区のブロック対抗日笠山駅伝は15日、記念の50回大会が開かれた＝写真。旧川内市の全校区で開催されていた駅伝の先駆け。他が軒並み廃止される中、半世紀にわたり続いてきたことを関係者が祝い、選手たちは駆け抜けた。

永利小学校に赴任した校長の提案をきっかけに、1974（昭和49）年度に始まった。標高約340メートルの地区のシンボル・日笠山を、中学生が上り下りするのが特徴だった。現在は特別の機会を除き、山はコースを外れている。

同校を発着して校区を巡る18区間13.3キロ。全６チームが県下一周駅伝川薩チームの選手に伴走され、沿道の応援も受けたすきをつないだ。500メートルを走った同校２年の林龍空（りく）さんは「きつかったけど、駅伝選手に声をかけてもらって力が出た」と満足げだった。

全チームが無事にゴール。永利地区コミュニティ協議会の瀬戸口良一会長（66）は「歴史と伝統をつむいできた大会。少子高齢化で厳しさもあるが、今後も続けたい」と話した。（江田裕樹）

「南日本新聞」R6.12.19 掲載記事より